

## インド

## 内需主導で景気は堅調を維持

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部  
主任研究員 熊谷 章太郎  
kumagai.shotaro@jri.co.jp

## ■2 四半期連続で+7%台の高成長

インドでは底堅い経済成長が続いている。コロナ禍からの経済・社会活動の正常化が一巡していることを背景に、2023年7～9月期の実質GDPは前年同期比+7.6%と前期(同+7.8%)から小幅鈍化したものの、消費を牽引役に2四半期連続で+7%台の高成長となった(右上図)。秋口以降も、①2011年以来となるインドでのクリケットワールドカップの開催(9～10月)、②ディワリ(ヒンドゥー教の大祭)に関連した大型セールの実施(11～12月)、③インフレの鈍化やそれを踏まえた政策金利の据え置き(右下図)等受けて景気は好調に推移している。

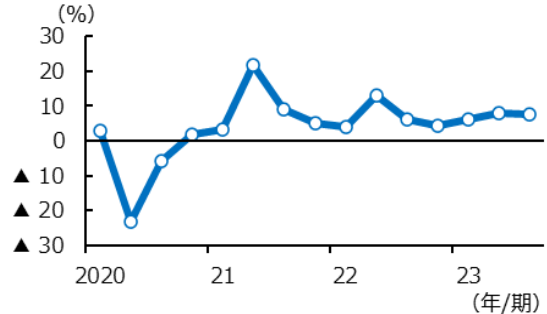
先行きを展望すると、エネルギー・食料を中心にインフレ圧力が低下していることを受けて、2024年の景気も底堅く推移する可能性が高い。米国や中国の景気が減速しているほか、産油国が追加減産で合意に至らなかったこと等を背景に、原油価格は2023年秋口の1バレル90米ドル前後から足元にかけて70米ドル前後に下落した。また、政府は、2023年12月からタマネギの輸出を禁止するとともに、飼料として用いられる脱脂米ぬかの輸出禁止措置を2024年3月まで延長することを決定した。これにより国内供給が安定し、食料価格は落ち着きを取り戻している。現在発生中のエルニーニョ現象に起因する異常気象によって、先行き農作物価格の上昇圧力が強まる場合、政府は輸出規制の対象品目を拡大する等の追加措置を講じると見込まれる。

## ■州議会選挙で現与党が5州のうち3州で大勝

2023年11～12月にかけて5州(ミゾラム州、チャットイスガル州、マディヤプラデシュ州、ラジャスタン州、テランガナ州)で州議会選挙が実施され、うち3州(ラジャスタン州、マディヤプラデシュ州、チャットイスガル州)で現与党のBJP(インド人民党)が過半数の議席を獲得した。事前の世論調査では、3州でBJPと最大野党(国民会議派)が接戦になる可能性が示唆されていたが、事前予想に反する大勝となった。同選挙は2024年に予定されている下院総選挙の前哨戦として位置付けられており、下院議員の1割強を占める重要州でBJPが大勝したことで、現与党連合が下院総選挙でも過半数の議席を獲得するとの見方が強まっている。企業寄りの政策を標榜するモディ政権続投への期待を背景に株式市場も好調が続いており、主要株価指数であるSENSEX指数は州議会選挙の開票翌日に最高値を更新した。

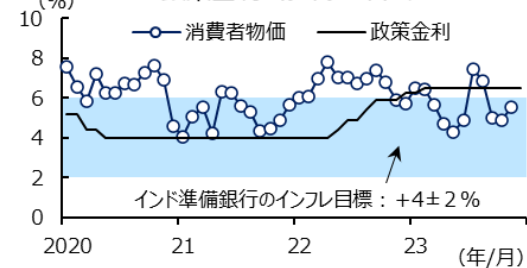
今後の政治・経済を展望するうえで重要なイベントは、2024年2月初に公表予定の2024年度予算案である。財政再建が喫緊の課題となるなか、政府が低所得者層の支持獲得に向けた零細企業や農家向けの大規模な支援策を打ち出すかが注目される。

＜実質GDP（前年同期比）＞



(出所) Ministry of Statistics and Programme Implementationを基に日本総研作成

＜消費者物価（前年同月比）と政策金利（レポレート）＞



(出所) Reserve Bank of Indiaを基に日本総研作成